

**第4回URAシンポジウム/第6回RA研究会合同大会
URA事業採択校セッション**

**「中・上級者向け研究マネジメント人材養成
プログラムの開発」の概要と進捗状況**

平成26年9月17日

**東京農工大学 大学院工学府 産業技術専攻
(先端産学連携研究推進センター 主任リサーチ・アドミニストレーター)**

教授 伊藤 伸

itoshin@cc.tuat.ac.jp

東京農工大学の活動経緯

- 平成23年の文科省URA事業の構想以来、東京農工大学では、URAが配置された**研究戦略センター**（当時）と**工学府産業技術専攻**（専門職大学院）が協力し、同専攻に教育プログラム「URA育成コース」（仮称）を設置する計画を進めてきた。
- 平成24年度にはURA育成を専門とした大学院修士課程を持つ米セントラルフロリダ大学等について**海外調査**を実施した。
- **早稲田大学**のURA研修・教育プログラムの作成にも参加した。
- 平成25年7月から8月にかけて、産業技術専攻の**集中講義**として「産業応用特論（リサーチ・アドミニストレーター概論）」を開講し、**国内初の大学院におけるURA向けの人材教育**を実施した。在学生向けの集中講義（2単位）であるが、URA事業の**採択大学を始め外部からの受講者を積極的に受け入れた**。

集中講義の実施

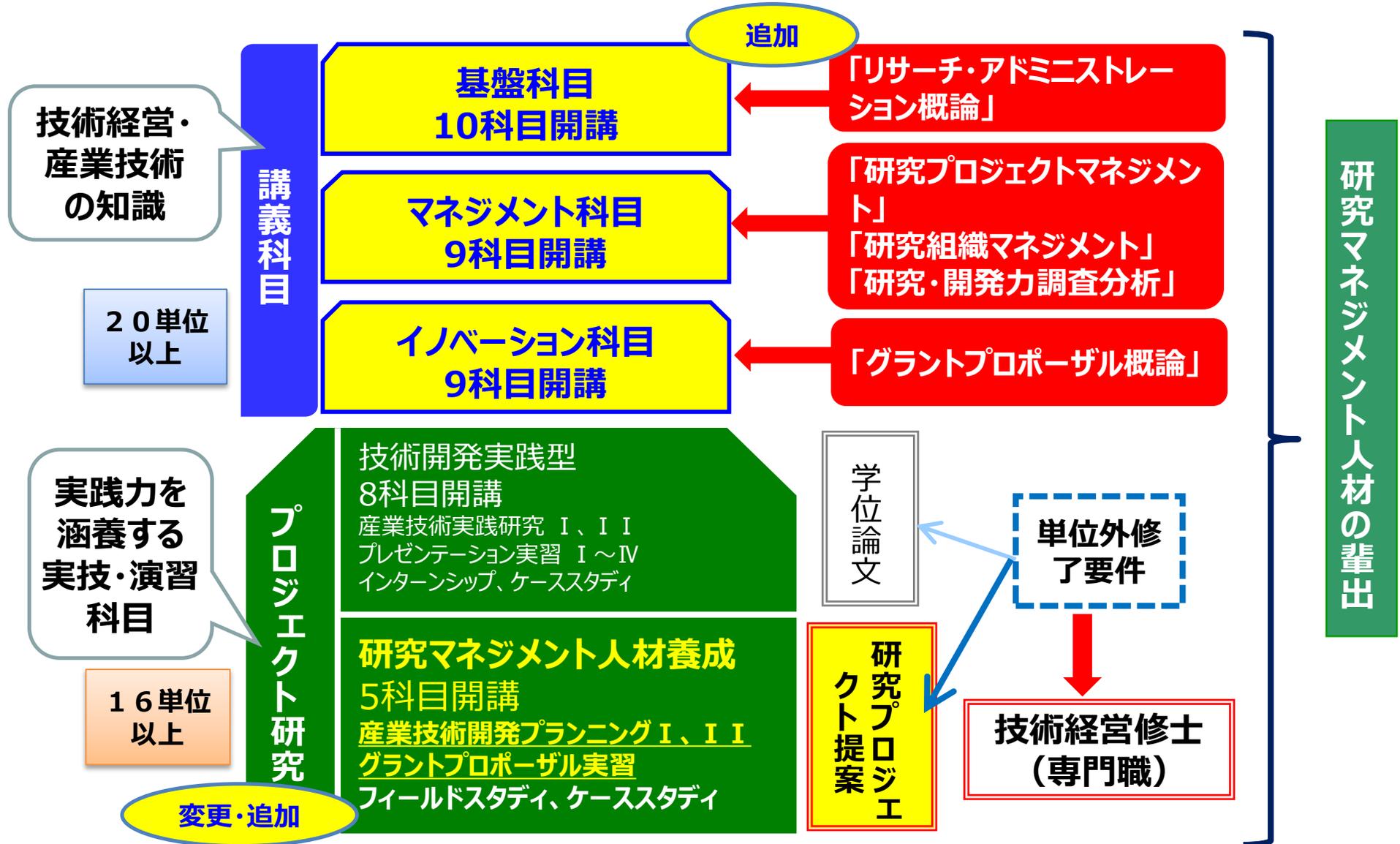
- 外部受講者は無料の聴講（単位付与なし、受講証を発行）とし、一部受講も可とした。**計9日間、15回の講義**を小金井キャンパスで実施し、総受講者数は**43人**に達した。
- 本学URAも発表や**グループ討議**に積極的に参加し、基礎知識ばかりでなく、応用的な業務において**課題発見と解決**ができるスキルの修得を目指した。
- 集中講義の経験を踏まえて、**平成26年に産業技術専攻の社会人向けプログラムを改定した。**



※集中講義の詳細は東京農工大学大学教育ジャーナル第10号報告「リサーチ・アドミニストレーター育成の集中講義」（2014年3月）をご参照下さい。

<http://www.tuat.ac.jp/~ched/publish/>

専門職大学院のプログラム改訂



本プログラム開発の事業目的

- 国内の大学において**研究マネジメント**に携わる**中・上級者向け**の人材養成プログラムを開発する。
- 本事業採択校を主な対象に**中・上級URA**に**必要なスキル**や人材育成の実情を把握するとともに、URAの「**スキル標準**」や基礎的な「**研修・教育プログラム**」を踏まえて作成する。
- **欧米**における研究マネジメント人材養成の潮流も反映させる。
- 学内の工学府産業技術専攻（専門職大学院課程）と協力し、効果的な人材養成プログラムを目指す。

※平成26年度に継続実施している文科省URA事業の一環

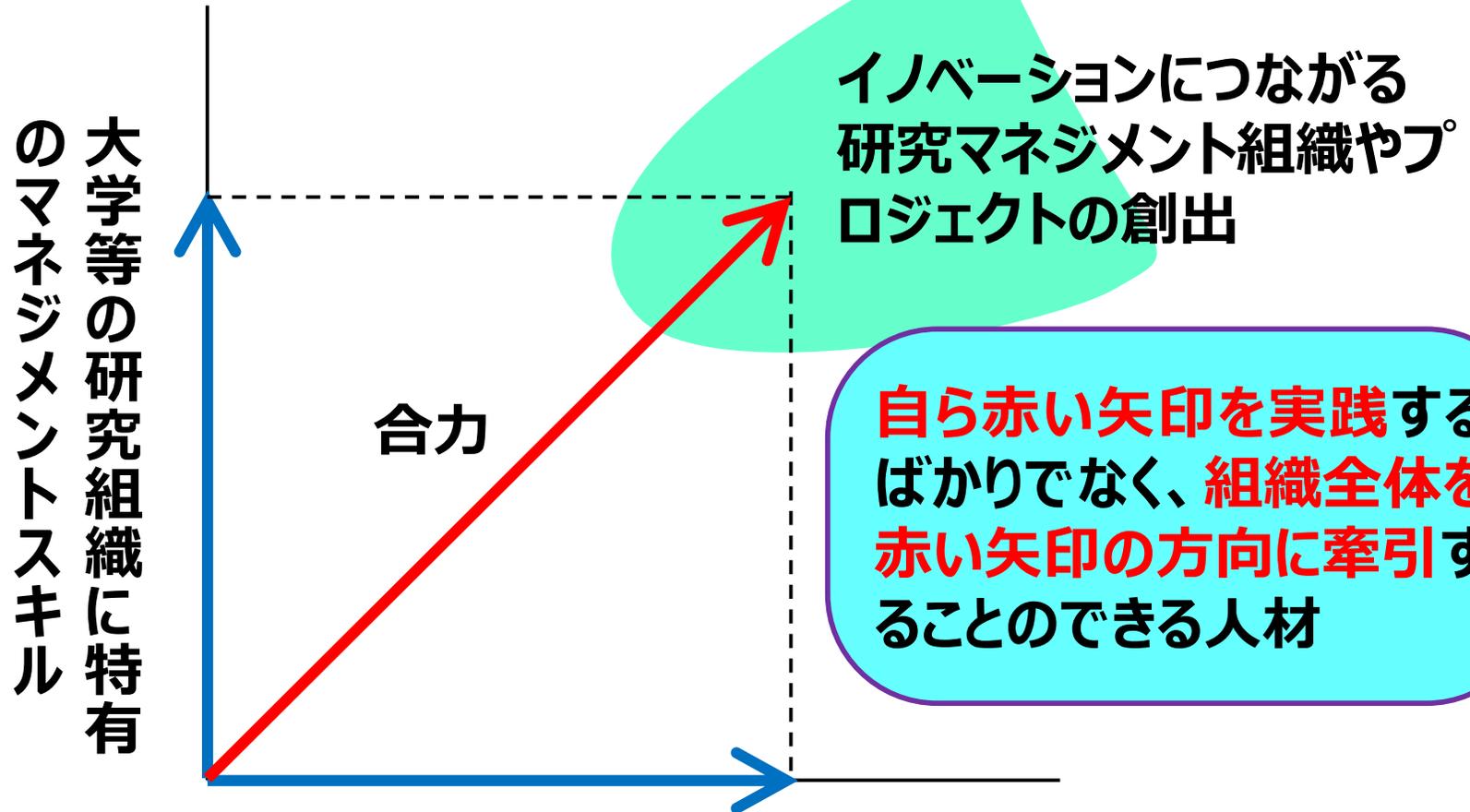
アウトプットのイメージ

- 今年度の中・上級URAに必要なスキルに関して **5科目程度**で構成する **1日～1日半程度**の試行的研修を **2回**実施する。日程は、第1回は**11月18日（火）**に、もう1回は**2月頃**に開催する予定。いずれも場所は**東京都心**を想定。
- 「知っている」と「実践できる」の距離を埋める研修としたい。対話型や演習を考慮すると参加者は**30人程度**が望ましい。35人を超えるとグループ演習で発表や質疑応答で「見ているだけの人」が出てしまう。産業技術専攻の1学年定員は40人。
- 東京農工大学としては、強みである**産学連携・知的財産**や**産業技術専攻**（専門職大学院）での**講義実績**といった特徴を活かした科目を盛り込みたい。

不可欠な中・上級URAの育成プログラム

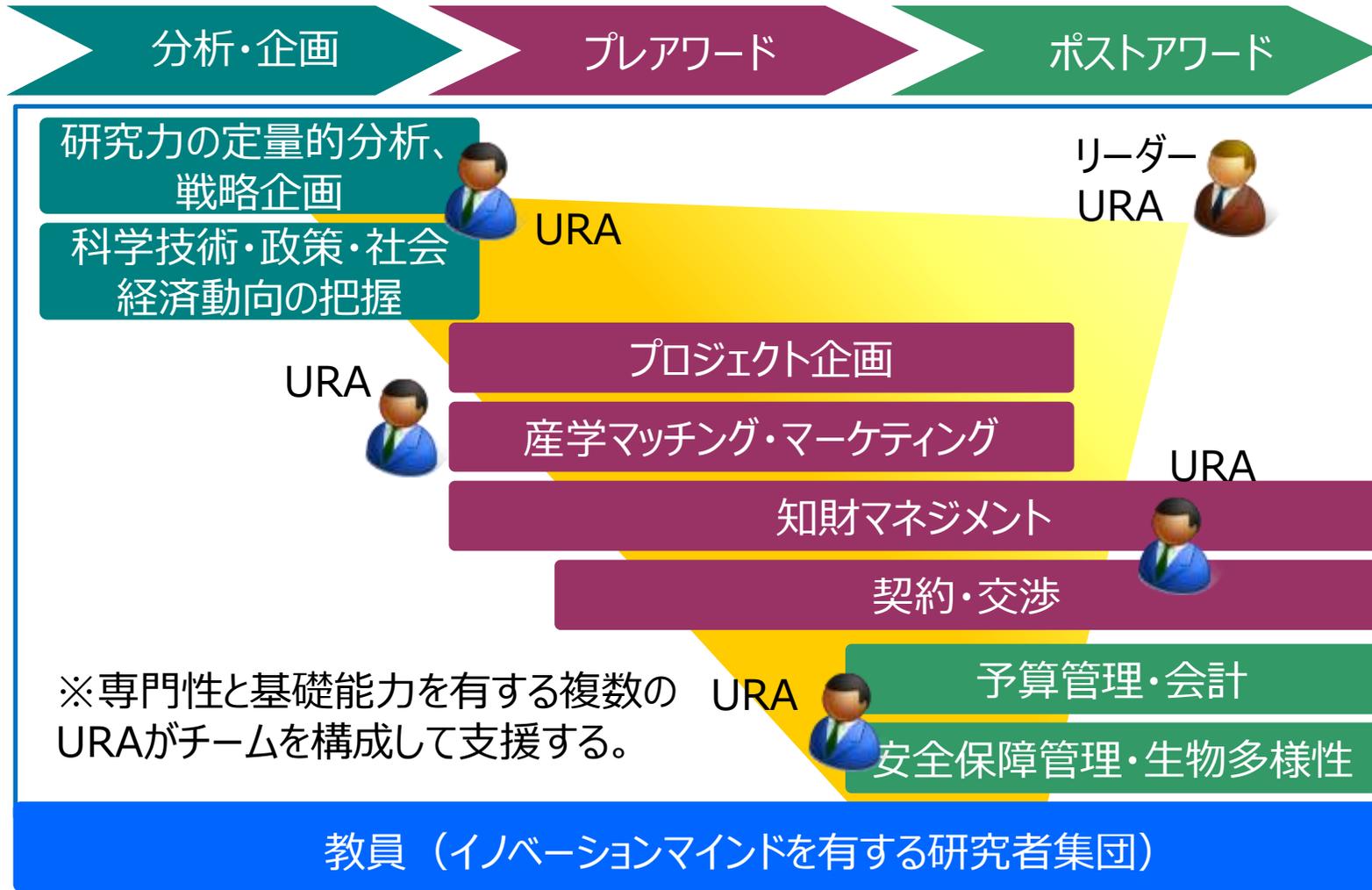
- URAの業務は、単独で遂行できる定型化した専門業務ではない。このため、**明確な組織の目標と目標にあった組織構造**があって初めてURAの**効果が発揮される**のではないか？つまり、各大学のポリシーに左右される部分が多い。
 - このため中・上級URAには、**大学の方針・目標を具体的な実務に落とし込む力、適材適所で人材を配置し、監督する力、全体の実務を俯瞰する力**が必要ではないか？
- 中・上級研究マネジメント人材養成プログラムの必要性（知識だけでは実践できない。）

中・上級URAにとってのマネジメントスキル



不確実な指揮命令系統、
多様な専門家集団・

俯瞰的マネジメント



イノベーション

科目選択の考え方

1. **スキル標準**において中・上級URAに特に**高度な専門性**が必要である項目
2. スキル標準の項目には存在するが、**研修・教育プログラム**（早稲田大作成）では**講義科目**にならなかったもので、中・上級URAに必要なもの（**国際関連**）
3. **管理職やリーダー**として必要なスキルだが、**組織一般に共通**との判断からスキル標準の項目に入らなかったもののうち、**URA組織**のマネジメントに**特有**なもの
4. 単年度事業で中・上級URAのスキルを**網羅的に扱うことは想定していない**ため、**農工大の特徴や経験**を活かせる科目

英国ARMA年次大会に参加して

- **事例紹介と「英国URAあるある」（日常経験の相互確認）**を組み合わせる手法が多かった。
- **国策（国の状況）が強く反映されている。**英国：先端的な科学技術研究を新興経済地域に結びつける国策を踏まえた活動。
- 日本と比較してGDPや人口が小さい英国で会員2000人超（所属組織は約220）。年次大会とは別に**研修プログラムが多数**提供されている。管理職向けもある。
- ARMAやNCURAの中上級者向け研修で足りるなら、必要な人が現地で研修を受ければいい。**国内の「現場感覚」や特性を踏まえた独自のプログラム開発**が必要ではないか（そもそも雇用システムが欧米と日本では決定的に異なる）。

研修科目(案)

I. 研究支援組織のマネジメント

- ① 組織設計と組織評価（体制づくりと変革）
- ② 人材育成と評価、キャリアパス（人づくり）
- ③ 俯瞰的マネジメントとリーダーシップ

II. 俯瞰的な産学連携・知的財産マネジメント

- ① 契約と交渉（NDA、共同研究、ライセンス）
- ② 国際化（英文契約、MTA、生物多様性、安全保障管理）

III. その他（本セッションからニーズの高いものがあれば）

- 上記5～6科目を計画する。ただし、試行的研修では、分類の同じ科目を一体化した講義とすることも想定。

スケジュール

月日	内容
7月中旬～8月	プログラム作成、URAシンポジウムセッション準備
8月22日（金）	プログラム策定検討委員会（金沢大主催、東京）
9月5日（金）、6日（土）	UNITT（大学技術移転協議会）Annual Conference 2014（関西学院大学・西宮市）。URAセッションあり。
9月17日（水）、18日（木）	URAシンポジウム（北大・札幌）、セッション開催（17日）。金沢大も別にセッション開催（18日）。
9月～11月	プログラム作成、第1回試行的研修準備
11月18日（火）	第1回試行的研修（東京都内で開催）
11月～翌2月	プログラム作成、第1回試行的研修のアンケート取りまとめ
2月頃	第2回試行的研修（東京都内で開催）
2月～3月	プログラム作成、第2回試行的研修の結果を反映させて取りまとめ。報告書作成。